

高校特別教室へのエアコン設置！

●野辺博・浦高同窓会会長の意見を受けて！

先週 6 日(金曜日)の日経新聞「私見卓見」に、浦高同窓会の野辺博会長が投稿された次のような意見がありました。既にご覧になっている方も多いと思いますが、こうした意見を添えて埼玉県知事への要望書も提出されたそうです。

◇ ◇

■高校の教室にエアコン整備を 埼玉県立浦和高等学校同窓会会長(弁護士)野辺博氏

今年の夏も酷暑が続く日本列島。そのような中でも、多くの公立高校の生徒はエアコンのない教室で学習している。こう言うと「今時そんな学校はないだろう」という声が聞こえてきそうである。しかし、エアコンのない教室は現在も少なからずある。▼文部科学省の調査によると、2020年9月時点で高校の普通教室の空調設置率は87%、特別教室などでの設置率は46.8%にとどまる。普通教室はクラス分けされた生徒が英語・数学・国語などの通常授業を受ける場所である。それに対し、特別教室は実験を伴う理科教室や美術・音楽などの芸術教室、家庭科教室などをさす。▼私の母校である埼玉県立浦和高校は17年ようやく普通教室(30室)にエアコンが入った。ただ、この設置・維持管理費用はすべてPTAが負担している。調べてみると、多くの県立高校ではエアコン設置の費用は県費ではなく、保護者・PTAの資金拠出により賄われているのが実情であった。▼しかし、これでよいのだろうか。いま浦和高校には特別教室が25室あるが、ここにもエアコンを設置してほしい、というのが保護者や生徒の要望である。しかし、この費用がまたPTA負担だとすると、エアコンの設置維持にかかる保護者1人あたりの年間負担はほぼ倍増する。保護者への過度な負担ではないだろうか。▼特別教室は普通教室と同様、ほぼ毎日そこで授業が行われる場所である。放課後は多くの文化部の活動拠点にもなっていて、その使用頻度は決して低くはない。▼温暖化が進み、夏は最高気温が35度を超える猛暑日も珍しくはなくなっている。熱中症で倒れたり、体調を悪くしたりする人の多さが毎年指摘されている。浦和高校では現時点で生徒に大きな被害は出ていないようであるが、教員には熱中症となった人もいる。▼理科・芸術などの担当教員は、同じ科目の教員同士の打ち合わせなどもあり、多くの時間をその特別教室で過ごしているからであろう。教員は県の職員であるにもかかわらず、その就業環境は劣悪であることを意味する。その是正費用を公費ではなく、保護者に負担してもらおうというのは筋が通らないのではないだろうか。

【日経新聞「私見卓見」8月6日】

◇ ◇

ここ数年の暑さは尋常ではなく、密閉性の高い校舎でのエアコンの必要性は大変高いものがあります。私も公務員時代に市が設置者である小中学校へのエアコン設置要望に対しては答弁に窮した思いがあります。

昨年9月での1都6県の状況を文部科学省のデータで見ると次のような状況でした。

設置者	教室別	保有室数	設置室数	設置率
埼玉県	普通	2,927	2,925	99.9%
	特別	5,325	3,099	58.2%
東京都	普通	3,726	3,726	100%
	特別	6,286	4,859	77.3%
神奈川県	普通	3,497	3,497	100%
	特別	4,292	2,939	68.5%
千葉県	普通	2,440	2,440	100%
	特別	3,952	2,070	52.4%
茨城県	普通	1,559	1,559	100%
	特別	2,781	1,108	39.8%
栃木県	普通	1,160	1,068	92.1%
	特別	1,758	532	30.3%
群馬県	普通	890	890	100%
	特別	2,116	732	34.6%

上記の数字をどのように評価するのかは、それぞれの立場や視点もあると思います。一般社団法人 埼玉県立浦和高等学校同窓会は、その定款に

第3条(目的) 当法人は、会員相互の親睦を図り、併せて埼玉県立浦和高等学校(以下「母校」という)との連絡を密にし、その発展に寄与することを目的とする。

第4条(事業) 当法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 講演会、懇親会等の開催及び記念事業
- (2) 会報及び名簿の発行
- (3) 母校及び在校生への支援活動
- (4) 前各号に掲げる事業に付帯又は関連する事業

とあり、今回、野辺会長が投げかけた一石は、同窓会の「母校及び在校生への支援活動」の一貫でもありません。ただ、行政への投げかけは大切なことではありますが、世論喚起とともに同窓会としてもできることがあるのかどうかを検討していくことも大切であると考えております。

ここ2年間、学校側から同窓会に対しては「グラウンドの人工芝生化の実現」のための支援を強く要望されてきており、同窓会として何を優先事業として捉えていくのか、今回の野辺会長からの問題提起を一つのきっかけとして理事会等で議論を深め、浦高同窓会の「母校及び在校生への支援活動のあり方」を整理することが大切だと考えます。私も会長を補佐する立場の一人として、どうあるべきか真剣に考えて参ります。